

伊達地方消防組合 「感震ブレーカーの普及推進」が条例追加

改正の背景

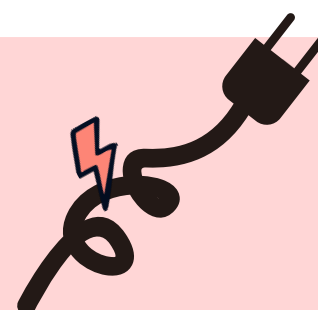
近年の大規模地震においては、電気に起因する火災が多く発生しており、地震時の電気火災のリスクを低減するため、感震ブレーカーの普及推進を図ることとしました。

令和8年3月31日施行

①なぜ必要？「通電火災」の恐怖

地震発生時

電気ストーブが倒れたり、コードが傷ついたりする。



避難中

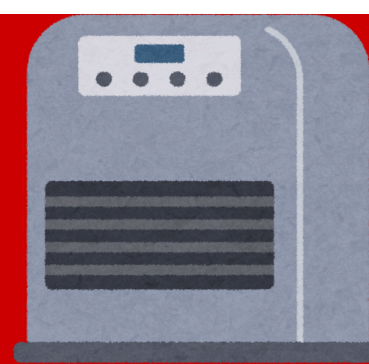
ブレーカーを落とさずに家を空けてしまう。



停電復旧時

電気が通った瞬間、傷ついたコードから発火。

火災発生!



②感震ブレーカーの仕組み



1

揺れを感知

設定以上の地震をセンサーが瞬時に捉えます。
(設定値：震度5強など)

2

自動遮断

あなたの代わりに、物理的に電気をOFFにします。

3

火災を未然防止

電気が復旧しても、勝手に通電しないので安心です。

主な種類と特徴

【参考】価格について
総務省消防庁「感震ブレーカーの普及推進に向けた会議
第1回 令和6年10月31日(木)「第1回住宅用火災警報器・感震ブレーカー設置・維持管理対策会議」
資料3 感震ブレーカー普及推進に関する背景・目的



分電盤タイプ

2万円～8万円

設置には専門業者による工事が必要ですが、一度付ければ家中のコンセントを網羅できるため、安心感は非常に高いです。



コンセントタイプ

5,000円～2万円

特定箇所の電気を遮断。工事不要で設置でき、家電ごとの通電火災対策に有効です。



簡易タイプ

3,000円～4,000円

重りやバネの力で遮断。上記2タイプと比べると安価で工事不要です。